

2020年5月10日（日）

主 題：「あなたへの大きな特権」

—まことの希望—

テキスト：1 ペテロの手紙 1章10～12節

目 標：神の子に与えられた特権（聖霊の助けによって知る神のみこころ）を、生かし生きるようアピールする。

### はじめに

- ・日本社会では、起業家やビジネス・パーソンが参加する「講演会」があります。受講料を払い、自分に益となる高名な方の「お話し」を聞きに行きます。そして、確かに益するところがあれば、有益な内容講演会であったと言います。
- ・考えてみますと、私たちの会話には、内容がある「お話し」と、内容があまりない「お話し」がありますね。内容がない「お話し」とは、つまらないもので、益となるところが少ないものです。むしろ、聞いているだけで心重くなることさえあります。
- ・一方、内容がある「お話し」には、益となる内容（意味）があります。聞いているだけで心がわくわくし、興味が湧いてきます。そして、本当に益になること（あるいはなったこと）が分かれば、心が躍ります。
- ・皆さん！神がお与えくださった「救い」という「お話し」には内容があります。「救い」には、大きく分けて**将来**、**現在**、**過去**という3つの側面があります。
  - ① **将来の側面**は、「生ける望み」を持つようになること (1:3-5)
  - ② **現在の側面**は、試練の中でも「大いに喜ぶ」こと (1:6-9)
  - ③ **過去の側面**は、預言者たちが熱心に「尋ね、細かく調べた」こと (1:10-12)

(私たちは①, ②はすでに学びました。)

- ・今日の聖書箇所は、その③過去という側面について語っています。  
**1:10 この救いについては、あなたがたに対する恵みを預言した預言者たちも、熱心に尋ね求め、細かく調べました。**
- ・ペテロは、「**預言者たちが熱心に尋ね求め、細かく調べました**」と言いました。モーセ、イザヤ、その他の多くの旧約聖書時代の預言者たち、また詩篇の作者たちは「救い」について預言しました。彼らは自分のために預言したのでありません。やがて来られるイエス・キリスト以降の人々のために、預言したのでした。
- ・天地創造の神の本性は愛です。愛である神は私たちの「救い」のために、将来、現在、過去という3面で、「救い」を私たちに知らせてくださっています。ご存じでしょうか。今朝は、③の彼らが旧約聖書で、熱心に調べ、探し求めていたものを、私たちは見させていただきたいと思います。イエスはヨハネの福音書で、次のように言われました。  
**5:39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。**

その聖書は、わたしについて証ししているものです。ヨハネ

- ・イエス・キリストが言われたように、旧約聖書は預言者たちがキリスト（メシア）について記したものと記しています。そして大切なことは、神の「救い」には内容があることです。しかし、この内容はだれでも分るものではなく、信仰ある人に内容があるのです。 2点

### 大切なポイント

#### 1. 昔の預言者たち

- ・イエス・キリストによる「救い」は、約2千年前に初めて明らかにされたのではありません。紀元前約6世紀、イザヤは次のよう預言しました。

#### イザヤ書53章

53:1 私たちが聞いたことを、だれが信じたか。【主】の御腕はだれに現れたか。

53:2 彼は主の前に、ひこばえのように生え出た。砂漠の地から出た根のように。彼には見るべき姿も輝きもなく、私たちが慕うような見栄えもない。

\* 「ひこばえ」：刈り取った草木の根株から出た新芽

53:3 彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちが思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。

53:5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちが癒やされた。

53:6 私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。

しかし、【主】は私たちすべての者の咎を彼に負わせた。

- ・このようなみことばを読むと確かに、イエス・キリストが歴史に登場する以前から、神は預言者を通して語っておられたことが分ります。しかしペテロは、こう言いました。

1:10 この救いについては、あなたがたに対する恵みを預言した預言者たちも、熱心に尋ね求め、細かく調べました。

- ・預言者自身が、これが誰のことなのか分かりませんでした。それ以上のことは啓示されていませんでした。ですから「熱心に尋ね求め、細かく調べました。」旧約の預言者たちはぜひ知りたいと思い、懸命に調べました。そして、彼らは自分たちが語っている預言が、どのように実現するのかも分かりませんでした。

1:11 彼らは、自分たちのうちにおられるキリストの御霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光を前もって証ししたときに、だれを、そしてどの時を指して言われたのかを調べたのです。

- ・そこで大切なことは、彼（預言者）らには、神の霊が宿っていました。その神の霊が彼らに、メシアの苦難とそれに続く栄光とを啓示していました。しかし、彼らには「苦難」

と「栄光」というテーマが、どうして調和するのか理解することができませんでした。  
それらは後の時代に、確かに成就しました。

- ・預言者たちは誰を、またどのような時を指しているのか、熱心に、こと細かに調べました。それは次のような理由からです。

**1:12 彼らは、自分たちのためではなく、あなたがたのために奉仕しているのだという啓示を受けました。そして彼らが調べたことが今や、天から遣わされた聖霊により福音を語った人々を通して、あなたがたに告げ知らされたのです。御使いたちもそれをはっきり見たいと願っています。**

- ・これが旧約聖書時代の神の人（預言者）でした。今は、新約聖書時代です。神は新約時代に、どのように臨んでおられるのでしょうか。それが次のポイントです。

## 2. 信者となった者たち

### 1) 幸いな新約時代の聖徒

- ・新約時代に生きる私たちは、旧約時代の預言者たちが知り得なかったことを、知るようになりました。なんと幸いなことでしょうか。私たちには、はっきりと知らされています！
- ・イエス・キリストの十字架によって罪が赦され、イエス・キリストの復活によって、新しいのちが与えられることになった、と明確に教えられています。ペテロは、「福音を語った人々を通して」知らされたと言いましたが、私たちは「天から遣わされた聖霊により」、聖書のみことばを通して、はっきりと知ることができます。
- ・私たちがへりくだり、聖書のみことばを読むとき、聖霊は私たちに教えてくださいます。それで私たちは、神が用意された救いのご計画を信じることができ、救いを受けることができました。

### 2) 御霊によって知らされる聖徒

- ・1 1 節に「キリストの御霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光を前もって証しした」とあります。そして1 2 節には「天から遣わされた聖霊により福音を語った」とあります。
- ・皆さん。御霊、聖霊は私たちに真理を教えてください。言葉として、知識として、理解はしていても、今ひとつピンと来ないことがあります。しかし、聖霊の導きを祈り求めていくなら、聖書の教えがストーンと落ちる時がきます。「ああ、そうか。こういうことか」と納得させられるのです。ですから、私たちは聖霊により、もっともっと教えていただくことが可能な時代に生きています。

{例 話} ヨハネ福音書8章

- ・イエスが多くの神のわざを行われた時、イスラエルの指導者たちは、なんとかしてイエスを捕らえようとし畏を考えていました。その中のひとつのストーリーに、次のような事件がありました。
- ・それは、姦淫の場で捕らえられた一人の女性でした。その大問題を抱えた女性が、イエ

スのもとに連れて来られ事件でした。モーセの律法によれば、姦淫罪は死罪にあたります。イエスが女の罪を赦すと言え、ユダヤ人にとって重要なモーセの律法を否定することになります。石打の刑にせよと言え、愛を説くイエスの教えに矛盾することにもなります。イエスはどちらの答えを出しても、攻撃されるシーンでした。

- 人々はイエスの元に集まってきました。そのあたりのストーリー（話し）を、聖書はこのように記しています。

8:7 しかし、彼らが問い続けるので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい。」

8:8 そしてイエスは、再び身をかがめて、地面に何かを書き続けられた。

8:9 彼らはそれを聞くと、年長者たちから始まり、一人、また一人と去って行き、真ん中にいた女とともに、イエスだけが残された。

8:10 イエスは身を起こして、彼女に言われた。「女の人よ、彼らはどこにいますか。だれもあなたにさばきを下さなかったのですか。」

8:11 彼女は言った。「はい、主よ。だれも。」イエスは言われた。「わたしもあなたにさばきを下さない。行きなさい。これからは、決して罪を犯してはなりません。」

皆さん。これは、イエスが1人の女を救った大切なストーリーです。

- 私たちはこのストーリーをどのように、読み受け取るのでしょうか。ある人は、イエスが身をかがめて「**地面に何かを書き続けられた。**」(8:8)に興味心があります。そしてそれを解明することは、知識をくすぐりおもしろいものでしょう。
- しかし、ある方は「**年長者たちから始まり、一人、また一人と去って行き、真ん中にいた女とともに、イエスだけが残された。**」(8:9)、に心が止まります。そして「**わたしもあなたにさばきを下さない。行きなさい。これからは、決して罪を犯してはなりません。**」(8:11)から目が離れません。
- 皆さん。私たちが聖書のみことばを読んでいくとき、みことばが私に直接語りかけてくることがあります。ここの文脈を読んでいくと、「**年長者たちから始まり、一人、また一人と去って行き**」(8:9)です。つまり、「**あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい。**」(8:7)、というみことばが自分に迫ってくるがあります。それが、聖霊なるお方の働きです。このように、神のみことばは聖霊とともに働いてくださいます。

- もう1点、興味深いことがあります。ペテロは次のように言いました。

1:12 御使いたちもそれをはっきり見たいと願っています。

「**はっきり見たいと願っています。**」とペテロは書きました。この言葉は、イスが復活され、空っぽになった墓をペテロたちが身体をかがめて、のぞき込んだときと、と同じ言葉であります。ルカ福音書

24:12 しかしペテロは立ち上がり、走って墓に行った。そして、かがんでのぞき込むと、**亜麻布だけが見えた。**ルカ

- 御使いは神に仕える者たちですから、神のすばらしい働きを見ているはずですが、しかし、その天使でさえ、キリストの苦難と栄光による救いの実現は、身をかがめて見たいと願うような、すばらしいことだと言うのです。

- ・ 12節から、私たちに与えられた特権は、どれほど大きなものかが分かります。もう一度、12節をお読みしましょう。

1:12 彼らは、自分たちのためではなく、あなたがたのために奉仕しているのだという啓示を受けました。そして彼らが調べたことが今や、天から遣わされた聖霊により福音を語った人々を通して、あなたがたに告げ知らされたのです。御使いたちもそれをはっきり見たいと願っています。

- ・ 旧約時代の預言者たちにも知らされていなかったこと、それは御使たちでさえ見たいと願うほどのことです。それを今私たちは、まぎれもない形で、知らされる時代に生きています。
- ・ この書簡が書かれたのは、約2千年前です。手紙を受け取った読者たちよりも、今日の私たちはさらに大きな特権が与えられています。この書簡が書かれた頃は、聖書はまだ完成していませんでした。人々はまだ、一部しか持っていませんでした。
- ・ しかし今は、聖書の啓示を完全に所有しています。母国語、日本語（英語、中国語）で読むことができます。ルターの宗教改革があった当時、人々は聖書を持っていませんでした。司祭たちが読むラテン語聖書の朗読は、一般信徒には不明（チンプンカンプン）であったでしょう。
- ・ 今、私たちは聖書をいつでも読むことができます。何種類もの聖書を読むこともできます。デジタル版をスマホに入れて、読むこと、聞くこともできます。そして、聖霊が助け主として臨んでくださる時代です。
- ・ しかし、聖書をいつでも読むことができることは、必ずしも聖書を読むことを意味しません。聖書通読をなんぞお薦めしても、する人はしますし、しない人はしません。

#### 『例 話』

- ・ 2020年3月、米国カリフォルニア州ヴェンチュラ（Ventura）にある「バーナ意見調査研究所」（Burna Opinion research center）の調査によれば、過去20年間において、米国では定期的に聖書を読む人が減少していることが分かりました。
- ・ 2000年の同調査では39%でしたが、2020年には35%と下降しました。これは米国社会の霊的かつ宗教的指針を示すもので、注目されています。この調査結果は過去20年間にわたり、9万6千件の意見調査に基づいて行われたものです。デービット・キンナーマン（David Kinnarman）所長は、「**数字の低下は、米国人の精神面を提示し、教会の活動状況も低下していると考えられる。**」、と語っています。
- ・ いかがでしょうか。「私たちに大きな特権」が与えられています。それは、イエスをキリストと信じた人に、贈物として与えられたものです。私たちは、この特権をどれほど生かしているでしょうか。神が与えてくださった特権を味わっているでしょうか。自問自答してみようではありませんか。
- ・ そして更に、私たちは神が与えてくださった**素晴らしい祝福**を、もっと、もっと隣人にお伝えしようではありませんか。神が与えてくださる祝福を、先ず自分が経験することです。そして、はじめて隣人に神の祝福を宣べ伝えることができるのでは、ないでしょうか。

ま	と	め
---	---	---

主 題：「あなたへの大きな特権」

—まことの希望—

- ・ 今日、私たちは幸いな神の御声を聞きました。私たちは今、旧約聖書時代の人々が知ることができなかった、幸いな時代に生きています。神の最大の願いは、それは神の「救い」に与ることです。
- ・ ペテロは神の「救い」の3側面があると言いました。
  1. 「救い」の幸いな3側面
    - ① 将来の側面は、「生ける望み」を持つようになること (1:3-5)
    - ② 現在の側面は、試練の中でも「大いに喜ぶ」ことができること (1:6-9)
    - ③ 過去の側面は、預言者たちが「尋ね、細かく調べた」こと (1:10-12)
 そしてペテロは、これら3点は後世の私たちのためと言いました。
  2. 神の奥義を聖霊によって知る
 

かつての聖徒たちが知ることができなかった神の奥義を、私たちは聖霊の助けによって、知ることが許されています。本当に今は、「恵みの時」であります。
- ・ いかがでしょうか。私たちは今、神の恵みの贈物（救い）をどれほど知っているのでしょうか。自分自身に尋ねてみましょう。

\* God bless you !